

伊藤奈緒著「教育による日本再興論(Ⅰ)ー教育は人と社会と国の未来を決するー」IBCパブリッシング 2023 年 5 月 4 日刊を読む

## 私立では総合型選抜・学校推薦型選抜が主流に?

1. (1)さて、日本の大学受験においては、「大学入学共通テスト」を基軸にして、国公立・私立の各大学・学部が個別に課すさまざまな選抜方式があります。  
(2)大学入試改革では、これらの選抜方式の名称が「一般選抜(旧・一般入試)」「総合型選抜(旧・AO入試)」「学校推薦型選抜(旧・推薦入試)」の 3 つに改められました。
2. 近年は 3 つのなかでも総合型選抜と学校推薦型選抜の 2 つ、いわゆる「推薦枠」が増えていると言われていますが、実際はどうなのでしょうか?
3. (1)私立大学を中心に、すでに定員割れを起こし経営の危機にある大学や、持続可能な経営ができるかどうかの瀬戸際にある大学がとても多くなっています。  
(2)総合型選抜や学校推薦型選抜は、経営的観点から早期に何とかして学生を確保したいという大学側のニーズと、少しでも早く受験を終わらせ、年内には進路を確定したいと願う受験生や保護者側のニーズとがマッチングした選抜方式と言えます。  
(3)この 2 つの選抜方式による入学者は、私立大学ではすでに 6 割近くになっています(2021 年度で私立大学全体の 58.2 %、令和 3 年度国公私立大学入学者選抜実施状況〔文部科学省〕による)。
4. (1)しかしながら、こうした動機による総合型・学校推薦型選抜枠の増加により、基礎学力が十分でないまま大学に入学する学生が増えています。  
(2)大学で中学・高校相当の内容から学び直しているケースがありますが、このことは、そうした選抜方式で学生を確保している大学ではとくに深刻な問題になっています。  
(3)また、こうした学生に大学 4 年間で専門的な知識やスキルを身につけさせ、彼らを社会貢献度の高い人材に育成できるかといえば、甚だ疑問です。  
(4)そもそも、入学定員確保が目的で共通テストも受けさせずに安易に合格者を出して入学させるということは、これからの時代を生き抜くために「学力の 3 要素」を備えた人材を育てようという文科省の根本方針からもズレているのではないのでしょうか?

5. (1)さらに昨今は、奨学金が返済できずに自己破産をする若者もいます。
- (2)大学に進学するだけでもコストがかかるのですから、それに見合うリターンをいかにして得るかということも考える必要があります。
- (3)目的意識もないままただ4年制大学に行くくらいなら、専門学校などの職業訓練校に通った方がリターンが大きいケースもあるのではないかと、個人的には思います。
- (4)「とりあえず4年制大学に行けばいい」という時代は終わったのです。

#### 難関私立大の一般選抜は文字通り「狭き門」に

6. (1)しかし同じ私立大学でも、大都市圏における名門の難関私立大学の場合は、これとは事情が全く異なります。
- (2)とくにこのような大学へ一般選抜を経て入学するのは、今まで以上に「狭き門」になっています。
7. (1)私立大学では従来、定員よりも多くの合格者を出してきました。
- (2)併願者が多く、合格しても入学を辞退する(より志望順位の高い大学に入学する)ケースがあるためです。
- (3)一方、文部科学省は、2016年度以降、私立大の入学定員の管理を厳格化しました。
- (4)首都圏や関西圏など大都市圏の私立大に学生が集中するのを避け、地方の大学に学生を回すための施策で、大学の規模に応じて入学定員の充足率を定め、規定以上の入学者を出した大学に対しては、ペナルティとして補助金をカットするというものでした。
- (5)その結果、難関私立大を中心に合格者数を抑える動きが強まり、一般選抜の難易度が大きく上がりました。
8. (1)この件は、施策の結果はもちろん、そもそもの意図からして、受験生本位とはとても言えません。実際、多くの番狂わせを引き起こし、受験生を翻弄しました。
- (2)でも、嘆いてもどうにもなりません。
- (3)結局、どんな状況になっても動じない本物の学力を身につけるのが一番の対策であり、自衛手段なのです。
9. (1)定員充足率の厳格化に翻弄されたのは学生だけでなく、大学側も同じでした。
- (2)そこで大学は、小学校を中心に付属校を新規に設置したり、系列校を増やしたりするとともに、付属校や系列校からの内部進学に力を入れるなど、学生を安定して確保するためにさまざまな努力をしています。

(3)たとえば慶應義塾大学では、2022年入試の合格者のうち、一般選抜を経て入学した学生は6割程度で、それ以外の学生は内部進学や推薦入試などによる進学者なのです。

10. (1)付属校や系列校に入学できるのは、都市部に住んでいて、家庭に経済力があり、中学・高校受験はもちろん、小学校受験に本腰を入れられる教育熱心な家庭の子どもに限られます。  
(2)地方在住ですと、この進学ルートに乗るのは相当困難です。実際、東京の難関私立大の地方出身者率は下がっています。  
(3)学生の多様性を担保するために多様な入試を行っているはずが、現実には学生の多様性が失われているケースもあるようです。

11. こうした一連の動きを背景に、難関私立大の一般選抜は受かりにくく入試になりつつあります。

P50～54

#### <コメント>

大学受験指導 No.1 の評価の高い伊藤先生の現代の大学入試状況の解説は極めて有意義です。大学受験生、保護者、学習塾・予備校の先生方の必読書です。是非、お読みください。

2023年5月22日(月)林明夫